

令和5年度第4回「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」概要

日時	令和6年2月4日(土)10:00～11:30
場所	人権男女共同参画センター 1A・1B 会議室
テーマ	活かそう公園、地域のアイデアで！
出席者	市民12名 山崎市長、市民交流部職員4名、都市安全部職員4名

1 開会

- (1)市長挨拶
- (2)本日の流れについての説明

2 市民と市長との意見交換

- (1)都市安全部によるテーマの説明(20分程度)
- (2)意見交換

ア 【司会】本日のテーマである「活かそう公園、地域のアイデアで！」ご意見をいただきたい。

イ 自分たちの考えが反映されるのは嬉しい。アドプト団体は実際何団体あるのか。アドプト団体の条件は。

ウ 【公園河川課】令和5年4月1日現在、アドプト団体は65公園(団体数は42団体)。アドプト団体になれる条件は、地域の団体であることが条件。その中で公園の維持管理の手伝いをいただく。清掃や除草、水やりの活動をしていただく協定を市と結んで活動してもらおう。それに対して市も報奨金を出している。

エ 【市長】既存の団体でなくても良い。管理をするために地域の方に集まってもらっても良い。ある意味誰でも良い。地域の特色や、地域の方でいい形で公園を使いたいと思って集まってもらえれば良い。協定を結んだ後は一定の公園管理をお任せする。宝塚市では5月にガーデンフェスタを実施している。自宅や公園を対象としたコンテストが2年に1回ある。アドプト公園の中で入賞したところがある。季節問わず、公園を花でいっぱいになっている。ハロウィン等季節を感じられるので、小さい子どもたちが喜んでたくさん来られている。それが地域の特色だと思った。

オ 防災士でもあり、防災に興味がある。かまどベンチが良いと思った。災害の時に誰でも使えるのか。管理はどうなっているのか。炊事給水できたら一時避難の場所になる。中山、雲雀の素晴らしい活動内容を自治会が知れたら良いのでは。知らない方がいるので、公園河川課からのアピールをしていただきたいと思った。

カ 【公園河川課】かまどベンチはカギを開ければ使える。カギは、市と団体が持っている。かまどベンチは、既製品を設置している。製品の品質保証の観点で、手作りでは不安な部分がある。練習の時は、団体から消防署に許可申請が必要。広報については、良い方法を考えて

市民の方々にアピールしていきたい。

- キ 【市長】公園が避難所になるのはすごく良い。宝塚市と地域の合同で1月17日、18日に避難訓練した際、避難所がいっぱいになり入れなくなるシミュレーションをした。人が入れる避難所に移動するとか、公園も避難所になれば、体育館のような狭いところに入るより、一定の安全を守れる避難所にできれば良いと思った。
- ク 私も防災士であり、知識を活かしながら光ガ丘地域のためにアイデアを出し、サポートしたくて活動している。避難所がいっぱいになった際、ペット連れの家庭も多いため、公園での避難はマストだと思う。光ガ丘で煮炊きできるピザ窯づくりを通して、実際に何か煮炊きするワークショップができないか、とアイデアを出しているが、火を使うのが難しいという理由で市の許可が出なかった。企画やアイデアを出す際に思うのが、公園の利用は、お年寄りだけではなく子どものものである。見渡してみると、子どもが利用できない現状がある。理由は、ボール遊びやバスケットボールはダメ。スケートボードもダメ。坂道が多いからダメという。結局、西宮にある広い場所まで車で行っている。近くに広い公園があるのになぜできないのか、素朴な疑問である。公園が機能していない。花と緑で囲まれた美しい公園は良いが、子どもが集えない公園になっている。活動に取り組む中、3世代交流で自治会を担っている高齢者は活動が難しくなっている。その状況を突破していくには、子どもたち主体の公園づくりを行う必要がある。子ども達の声が騒音問題にならない、ボール遊びをしても許される場所にしていけないといけない。子どもたちの意見を聴取してほしい。これからのまちづくりの担い手の小学生、中学生の意見を集めないといけない。遊具や砂場は時代遅れだと思うが、健康遊具にお金を使っても若者は使わない。高齢者向けばかりである。若者が使えるような健康遊具、筋トレができるものが良いのでは。そういう発想の転換をしてお金を使ってほしい。若い子たちの意見を聞いてもらいたい。
- ケ 【市長】ペットの避難について。兵庫県下5つの市町でペット避難所を設定している。宝塚市ではペットの避難訓練も実施している。避難所に連れて行きたい気持ちもわかるが、災害の状況にもよる。人、ペットの両者にリスクがある場合、ペットに関しては宝塚高原ゴルフ場を避難所とする準備を進めている。バスケットゴールは地域からの声があれば、設置をしようとしているが、私のところにも騒音問題で苦情がくる。バスケットゴールをつけてほしいと言う子どもも、苦情を言う大人も市民。担当に頑張って説明してもらっているが、様々な事情があり地域によっては難しいところもある。今は設置できなくても、時間がたったら設置できるかもしれない。両者の話を聴きながら時間をかけて考えている。子どもの意見を聞くというのは私も同様の意見。公園を作る計画の中で、子どもの意見や学校の意見を聞きながら進めている。まちづくりとは一体何かということで、子どもの遊ぶ場所、大人になる前の世代が集まる場所に現在なっているか。遊具を設置しても、突然人が来るわけではない。公園の位置づけを市民も理解し、公園に集まろう、こういうことをしようという意識だと思う。皆さんにご理解いただくには時間がかかる。みんな一生懸命地域に出向きやっているので、意識改革からやってみようと思う。

- コ 【公園河川課】テーマであるリノベーション事業は提案をいただき、アドプト団体に意見を聞くことになっている。課題は、子どもたちの意見はアドプトに反映されているのか。となると、アドプト活動に子どもがどれくらい参加しているのかということになる。学校に行っている子ども達は、実際参加が難しいこともあり、どこまで意見を吸い上げているかというのは課題。公園の計画でパークマネジメントを3年かけて作っていかうとしている。市民のニーズに合った公園整備が必要。考え方から変えてやっていかうとしている。子どもたちの意見を聞き、吸い上げ方については検討中。
- サ 【公園河川課】Aさんのピザ窯やバスケットゴールについては、リノベーション事業で提出いただいている。今回は採択されなかったが、内容をブラッシュアップしていくという話を聞いている。予算の関係があるため、またご提案いただけると解釈している。何が何でも市役所が却下しているわけではない。光ガ丘公園で可動式のバスケットゴールも検討している。毎年リノベーションの提案数も少なくなってきたため、引き続き地域で検討いただきたい。提案数も減少してきており、採択されるタイミングが近づいていると思うため、引き続き地域で「勝てる提案」を議論し提出してもらえればと思う。
- シ 僕は小学6年生。小学生の意見が取り入れにくいということだが、公園をどうしてほしいという目安箱を学校に置いたら良い。年に1、2回委員会で精査し、簡単な事は学校でまとめ、難しいことは地域のまち協と連携して行えば良い。
- ス 【市長】大人側が子どもに意見をもらう方法を悩んでいる。目安箱を置いておいて日々意見を入れてもらい、学校の委員会で話し合い、それを地域に持って行ってもらう。子ども側から動いてくれるのはとても嬉しく思う。子どもたちが意見を言いやすくなる仕組み作りを市で一生懸命考えている。今後、「公園について教えてください」という連絡がきたら、周りにも意見を言ってもらいたい。
- セ 子どもたちの公園について。住宅街を歩いていると、道路で親子が車を気にしながらボール遊びをしているのを見る。なかなかのびのび遊べない状況だと思った。かまどベンチは宝塚市の公園に何か所設置されているのか。実際に災害時、火をつけたり使いこなせたりするのか。学生団体で、以前炊き出しの練習をした。そのような訓練は宝塚市で実施しているのか。
- ソ 【公園河川課】設置場所数については、手元に資料がなくお答えできず申し訳ない。訓練は火を使う際には消防に、食料品を使用するのであれば保健所に届け出が必要。地域活動の一貫で、防災訓練の際にせっかくの機会だからと、かまどベンチの利用訓練を実施していると聞いている。いつどこで何回ぐらい使われているかは、市役所である程度把握している。後日回答させてもらいたい。(後日、設置場所数は3か所、使用頻度は2か所で年に1回と回答済み)
- タ 行政が悩んでいる障壁がどこにあるのか。それに対して団体で何ができるかを考えたい。アドプトの話で、アドプトを増やす取組が必要とあるが、実際は担い手不足の話が出ていた。アドプト活動に入っていない自治会にはどのようなアプローチをしているのか。
- チ 【公園河川課】アドプト活動に入っていない自治会について、どの程度公園の管理をされてい

るのか市では把握しかねている。どこからアプローチして良いのかも悩んでいるところ。広報活動の中で、アドプトのメリットを伝えているが、どのようにすれば関わっていただけるを増やしていけるか、という点はコンサルティング会社とも協議をし、意見を聞いて進めている。

- ツ 中山桜台自治会は高齢化しているが、山手台の上の方の自治会には若い人も入っている。そこはアドプトが入っているのか。もし入っているなら、若い世代の自治会に意見を聞いてみるのが一つだと思う。また他の団体がどんなことをしているのか情報共有ができれば良い。フィードバックできれば良いと思う。これまでの市の実施状況を見させていただき、他の団体の活動がわかった。このような共有が望ましい。子どもをはじめ、今行政として、子どもたちへのアプローチはどのようにしているのか。小学校にヒアリングしたりしているのか。
- テ 【公園河川課】学校に直接アプローチはできていない。パークマネジメント計画の中で、アンケートを実施するなどニーズを把握するところから始めたいと思っている。直接意見を聞ける場を設けたい。
- ト 子どもの意見を広く取り入れるのは重要。アンケート形式だと、ばらつきが出る。一本釣りになるかもしれないが、ワークショップ形式で小学生同士の意見交換も必要。10年ほど前に品川区の公園のリノベーションのためにワークショップをした論文が出ている。複数回ワークショップを実施した。子どもたちが集まって、自分たちの遊びについてまとめる。大人は子どもの頃にしていた遊びをまとめる。次に、先進的な取り組みをしている公園を見に行く。コンセプトをまとめて模型を作ってディスカッションをしている。最終その形をリノベーションにつなげた取組があった。そういうのを参考にしてはどうかと思う。
- ナ 【市長】子どもの意見を吸い上げるのは難しいが、先程の手法は有益な情報。ありがとうございます。今現在、子どもの意見を吸い上げるために子ども議会をしている。子ども議会では毎年「公園」が議題に上がる。子どもの興味が公園に向いていることは私も感じている。今教えていただいた中に、他の自治会が公園についてどう考えているかわからないという意見があった。公園に限らず隣の自治会の活動内容がわからないという現状がある。次年度は、市民交流部に自治会が横連携で情報交換できる場を作ってほしいと言っている。その中で公園等の取組も共有できる仕組みになれば良いと思っている。良い意見をいただいて感謝している。
- ニ 地域の中の小さな公園である街区公園では、どうしても住宅と住宅の間にあるためボール遊びが難しい。高齢者向けの器具も多くターゲットが絞られていると思い気になっていた。自分自身はもっと規模が大きい地区公園に行っていた。高校生の3年間、朝昼晩通学で末広中央公園を見てきた。朝はラジオ体操をしている。市役所や小学校があつて、メインの住宅街から離れているが、自分の区域から離れている人が集まるのが良いと思っていた。昼間は子ども中心で幅広い年齢層。末広中央公園は広く、夜間は薄暗く物寂しくて通るのが不安だった。宝塚市として夜間に対する取組は行われているか。すみれが丘南公園の夜間映画上映が気になった。末広中央公園などの規模の広い地区公園で夜間イベントが定期的に行われれば、夜に通る人の安心に繋がるのではと思う。

- ヌ 【市長】私も毎朝市役所へ通勤するために、末広中央公園の横を通って行く。朝は散歩やワンちゃんの散歩している。走っている人もいる。毎朝同じベンチに高齢の方がきゅっと4人座って話をされている。昼に公務で外に出ると親子連れ、ワンちゃんの散歩、高齢の方、本当に色々な人がいる。小中学生は学校に行っているのでもない。平日と土日では人の様子も変わってくる。夜の公園にたくさんの方がいる状況の場合、そのまちはどんなライフスタイルだろうとなる。例えば、夜 20 時、21 時に小学生が公園にいると心配になる。夜のイベントに関しては、末広中央公園のサマーフェスタでは盆踊りを夜までやっていた。さくら橋公園では、夜のコーヒーフェスティバルをした。夜を明るくすることが目的なのであれば、イベントをするのは別の話で、イベントをするのであれば、そこに人に集ってもらう、そのイベントを楽しんでもらう必要がある。夜の公園は広くて暗くて不気味だと感じるかもしれない。でもそこはそこで、静かな公園を楽しんでいらっしゃる方もいる。だから必ずしもイベントをしてにぎやかにすることだけが、夜の公園の使い方ではない。夜の公園を自分のひとつの居場所としている方もいると感じている。ただ、防犯という意味では、明るい方が良い。これについては、バランスである。
- ネ 【公園河川課】夜間に人が集まることについて、防犯上、明るいことで犯罪は防げる。しかし、明るすぎると人が溜まってしまう懸念がある。市長が言う通りバランスを見ながらだと思う。
- ノ 【市長】夜のイベントは集まる人の雰囲気が違う。今年度はコーヒーイベントをした。夜の野外オペラも提案してみたが、夜のイベントはハードルが高い。「ご理解ご協力を」と呼びかけるが難しい。皆様のご意見を聞きながら、良い方法を考えていきたい。楽しい宝塚に向けて、ご意見いただけると嬉しく思う。
- ハ 公園は子どもが利用することで公園の利用価値が上がると思っている。私が小さい時は、遊び場は公園だけではなく田んぼ等もあった。最近は住宅が増え、自然環境が減っていると感じる。最近、町中は夏休み中も虫捕りをしている子が少ない。虫が苦手な子も増えていると思うが、幼少期に自然と触れ合うことができていないからでは。公園が自然と子どもたちをつなぐ場になるのではと思っている。自然生物と触れ合うという面で、カブトムシを捕まえたりする子が少ないのではと思う。公園は子どもたちがボール遊びをするだけの場所ではなく、生物の観察ができる公園があれば良いと思う。よく利用する近隣の街区公園で緑地の計画や自然保全の活動をしていたら教えてほしい。
- ヒ 【市長】私自身、自然は大切にしたいと思っている。一度失われてしまうとなかなか元には戻らないため、大切にしたい。きずきの森は本当に素晴らしい。そこには、生物多様性も見られて、大切だと思っている。宝塚市では銀座ミツバチプロジェクトと包括連携協定を結んでいる。銀座のビルの上で養蜂をしている団体。銀座のビルの上で養蜂するという事は、そこは緑でいっぱいということである。そこで取れたはちみつを製品にしていく。化粧品会社のゲランでは、銀座で取れたはちみつで化粧品を作っている。宝塚市にも導入したいと思った。そこで扱っているのは日本ミツバチ。日本ミツバチは環境指標生物と呼ばれ、日本ミツバチがいるということは、その環境は一定以上良いものであるということである。環境が良くないとミツ

バチは死んでしまう。ホテル若水にミツバチの巣箱を置かせてもらっている。そこから花のみちや河川敷の蜜を集めている。ミツバチにはちみつを作ってもらうためには花が必要であるから、緑化を進めていくという考え方。花のみちを整備してくれているのもアドプト団体。四季折々の花を植えてくれている。宝塚大橋も緑が増えていく予定。武庫川女子大学の大学院の方にデザインしてもらった。宝塚市最大の里山である西谷にはハッチョウトンボや野鳥がいる。本当に大切にしていきたいと思っている。里山やきずきの森の生態系は回っているが、小さい公園がある市街地では、守り増やしていかないと自然が減ってしまう。そこに宝塚市は今、力を入れてやっている。このミツバチプロジェクトではビースクールをやっている。今は市内の小学校で、ミツバチの仕組みや緑化の仕組みを教えていただいている。1年で2校ずつしかできていないが、全校で実施しようと思っている。これで、子どもたちにも緑の大切さ、公園で緑を増やすことを考えてもらえたら嬉しいと思い取り組んでいる。先ほどの訂正で、花の道の整備はシルバー人材センターに委託している。

- フ 色々な方から話を伺ったが、公園が誰のためにどういう機能を果たすべきなのか、公園の位置づけが重要だと思う。何を公園に求めるかという住民自体の価値観も多様化しているし住民の年齢構成も変わってきている。そのようなことを考えると、従前の子どものため、お年寄りのため、とハード面での遊具を置くということでは解決しないと思う。住民のライフサイクルの中で、どの年齢の人がどのような使い方をして、というのがあると思う。その時の公園に求められるものが、その時その時にスクラップ&ビルドではなく、柔軟に使える公園にしていくため、インフラの整備を住民側と行政側でやっていけるようになれば良い。2点目は市の皆さんが、たくさんある公園のニーズを細かいメッシュで吸い上げるのは困難なため、それなりに調査して行政にお届けする、もしくは住民の合意形成を図る必要がある。今までであればその機能は自治会で、そことタッグを組んだアドプト団体がやってきた。私自身も中山桜台自治会で、今日は3人で参加させてもらっている。幹事になってはじめてそういう活動を知ったということで、余計にこのアドプト制度自体の認知度、普及度、また今後どう維持していくかが緊急の課題だと思う。高齢化、年齢だけでなく、自治会活動への参画意義を感じる人が減ってきている中において、そもそも住民がその地区を行政任せではなく、一緒に守り育てていくという根本の意識づけがあってはじめて、公園をどうしていくかに繋がる。公園の話から一奪してしまうかもしれないが、本質課題として各住民がそのまちをどのようにしたいのか、当事者意識としてやっていくか、その意識づくりを今一度醸成していただけるとありがたい。3点目、これは中山桜台の課題であり、他の地域にもあると思うが坂道が多い。なので、公園でのんびりしたいと思っても、足が追い付かず、行きたくても行けない人が増えてきている。3月末にお祭りを開催しようとしているが、上がってくる課題は遠い場所の人が出て来られないのではということ。日常的に公園を使っただいて、初めてこうしたいというニーズが出てくる。同様の課題がある場所があると思うので、これも他の課題と同様に横展開、情報共有しヒントをいただければ。
- へ 【市長】1点目はその通りだと思う。2点目は本当に難しいことだと思う。意識づけをし、理解し

てもらうのは難しい。こうしなさい、ああしなさいということではないと思う。例えば自分が住んでいる地域への愛着や、隣の人たちとどのように協力しながら生きていくのかという話になり、難しい。難しいからといってそのままにしておくわけにはいかない。公園の位置づけをみんながどのように考えるか。これは永遠の課題になると思うが、その時その時のニーズがあると思う。細かく私たちが全部拾うことは難しいため、話し合いながら、一緒に考えていく仕組みから必要があると思っている。宝塚市は山と川で平地がほとんどない。例えば市が何か建てようと思っても土地が無い。バスも上がれない。これは阪急電鉄等と話し合いをしているが、交通手段も今までのものと変えていかないとこの地形には対応をできないと考えている。来年度から実証実験をしようと思っている公共交通もある。とはいえ、公園から家をつなぐ細やかなものは難いため、話し合いをしながら、イベントの際には人が来やすい手当をする等、その場所と皆さんの動きを個別に見ながら一緒に協議をしていきたいと思っている。

ホ 【都市安全部】足の確保については、確かに道路事情が良くないため、どうしてもバスのサイズが上がっていけない実情がある。もう少し小型のジャンボタクシーサイズなら入っていけるのでは、ということで来年度実験をやっていく。どうしても全国的に公共交通機関の担い手が減っているため、それに対して違う交通手段の確保を考えていきたい。公園から外れてしまって申し訳ない。例えば公園まで、近所のスーパーまで、という足の確保については、今パーソナルモビリティといういわゆる電動車椅子のレンタル等もあって、令和4年度中山五月台公園でイベントがあった際に紹介させてもらった。直接市が何かできるというわけではないかもしれないが、お手伝いができたらと思っている。公園については、パークマネジメント計画を検討する中で、地域ごとの課題は小学校区単位程度で皆さんと意見交換する中で、例えばこの公園は遊具を置かずにボール遊び専用にする等、使い分けのローカルルールを作ってもらえれば、市もそれに応えていくような整備も考えられるのではと思っている。今後そのような計画を進めていくためにも、皆さんとの意見交換にしっかり取り組んでいきたい。その中で子どもの意見を直接聞くことも市長の方から承っているので、やっていきたいと思う。

マ たくさんの意見が出た。昔、児童公園と言って私たちの子どもが遊んでいた公園が徐々に高齢化して大人の公園になり、またサイクルで、その高齢化した人たちが若い孫を連れて公園を使っている、今は過渡期のような状況になっている。私たちが高齢化して大変であるが、公園を中心としたまちづくりができないかと地域で色々仕掛けを考えている。組織も今までボランティアの方を中心に公園を見てくれていたが、今年からは自治会も乗り出し、もっと組織的にボランティアが1人2人欠けても大丈夫な体制を作りたいと思っている。公園の遊具の更新があったが、その遊具も昔の遊具。それを今風の複合的な遊具に変えてもらいたいという要望が通らなかった。ニーズが変わってきているため、遊具も変えてもらいたい。特殊公園である北中山公園は、20数年前に整備された。子どもたちが自然の中で体験するということがあり、整備を手伝ったことがあった。きずきの森は綺麗に整備されている公園。北中山地域は本当に東尾根の山道。そこを広場みたいに整備されているが、ほとんど放置された状態になっている。そこにあった椅子も朽ちている状態。使われていない感じがする。小学校の学校

教育の中で、子どもたちと公園の清掃に一緒に行ったり、子どもたちと一緒に花を植えたりしたこともあったが、そういう授業も無くなったようだ。地域との接点が少しずつ無くなってきていると思う。やはり子ども達がきれいに整備された場所ではなく、自然に野山を駆け回れるようになれば、幸せがいっぱいあると思う。それをもう少し利用してもらえればと思う。

- ミ 【市長】遊具は決まったものしか設置できないのか。
- ム 【公園河川課】今回の遊具の更新は長寿命化計画に基づくもの。市内の公園には滑り台や砂場等同じ遊具ばかり、という声もいただいている。今回の更新にあたってはできる限り、要望を反映させたかった。しかし国にこの遊具を更新しないといけないという計画を出した関係もあり、ご希望に添えず、提案の中で選んでいただかないといけなく申し訳なかった。公園のあり方については、理想はこの公園はボール遊びができる等特化したものができればと考えているが、そのあたりも地域のニーズを聞きながら進められたらと思う。
- メ 【公園河川課】北中山公園は自然のまま残っていて、ハイキング道になっている。道を綺麗にするにはまた人の手が入る。施設については、古くなったものは更新を考えていく必要がある。シンボル広場に古いお手洗いがあがるが、そこは色々意見もいただいていることもあり、来年度設計をする予定。予算的なものもあるが、それがクリアできれば令和 7 年度にでもまずトイレから更新していきたいと思っている。そういう場所は随時更新していきたい。
- モ 【市長】色々なご意見いただいた中で、予算が結構大切。私が自由に言えない現実がある。今現在10年間の財政見通しを立てている。次年度から状況が悪くなる時期がくる。これは宝塚市だけではなく、この時期はどこの市も下がるようになる。その時に限られた資源をどこにどう配分していくか厳しい時期が来る。それをまた上向きにするにはどうするのか、もっと厳しい時期が今年度末から来る。公園に関しては、私も大臣に会って補助金くださいと言っている。一気に全部は難しいので順番になると思うが、私たちは地域の方々がこういう公園にしたいというものにしていきたいと思っているため、理解していただくと大変嬉しく思う。
- ヤ 自然環境保全について。幼い時から、外に出ることが好きで、大人と子どもがともに勉強できるような地域イベントをしてもらいたいという思いがある。ボール遊びの話が上がったように、宝塚市は傾斜が急な部分があってボール遊びは難しいと思うが、大人から子どもまでともに遊べる空間やボールなどを使ったイベントの開催を希望する。大人と子どもと一緒に楽しめる時間を過ごすという点で何かイベントや行事、地域活動はされているか。
- ユ 【市長】今、公園で大人と子どもと一緒に遊ぶという表現をしていただいたが、本当の意味は大人と子どもの世代をつないでいくという意味かと思う。各自治会やまちづくり協議会では子どものためのイベントをしてくれているが、子どもが行くということは親やおじいちゃんおばあちゃんも来てくれる。イベントをする中で、楽しむ側、楽しませる側だけではなく、イベントの中で1つの思いをつなぐということを書いてくれるところもある。各地域で夏はあちらこちらで夏祭りや盆踊りやイベントがある。市でも市主催や共催や後援もあつたりする。地域の担い手が減っていることについては、ライフスタイルが変わり、55才定年から60才、65才と定年がのび、その年齢の人たちが今は現役になっている。現役の人になかなか色々なことをお願い

するのは難しく、地域の担い手になる時にはさらに高齢になってしまう。地域の方が私に、よく言われるのが、定年になったから地域のことで何か活動しようと思うが、どこに行ったら良いか分からないと。定年になるまでに地域活動をし、顔見知りになっていけば、地域の担い手になっていけると思う。それがイベントなのか違う形なのか、サロンなのか私たちも色々考えているところ。

- ヨ 大阪市内に住んでいる。住宅が密集していたり傾斜もあつたりするところではあるが、10分ほど歩けば大阪城公園がある。そのため公園に関して自分自身が困ったことはなかった。地域交流が重要という話があつたが、1つの公園の中でボール遊びができたり、別のところには遊具があつたり、高齢の方が使う広場があつたり、時々定期的にイベントが開催されるというのがある。今まで各世代のニーズに合わせた公園で過ごしてきたため、どういう意見をしたら良いか考えるが、あるとは思いますが公共施設の近くに公園があると地域交流として、色々な人たちが来るのではと思う。
- ラ 【市長】市役所の横には末広中央公園がある。高齢者がいたり、遊具があつたりという話も出たが、あそこは防災公園でもある。何かあつた時には市民の安全を守っていく役割もある。市役所第二庁舎にはピロティがあるが、市役所の中の庭も市民に開放しようとして今工事をしている。色々な方の意見を聞いて広場も市民が楽しめる場所にしたいと思っている。確かに公共施設の近くに公園があると使いやすい。できる限り市役所も開かれたものにしたいと思っている。
- リ 様々なニーズに応えるためには、予算が増えてくるため、貧乏な宝塚市には難しいかもしれない。企業誘致が必要なのでは。例えば淡路島にある水仙公園では、レストランがある。入場料400円を取っているのに、維持管理もできる。無料で様々な世代が使える公園も絶対に必要ではあるが、例えば駅にレンタサイクルを置いて、レンタサイクルで公園に行ける。そのためにその企業を呼んでくるなど、企業を使いながらやってもらいたい。
- ル 【市長】企業誘致については、一番は西谷に来てもらいたいと思っている。就任後大きな企業に調査に入ってもらったが、西谷にはWIFIが入らない。企業としては致命的。それであれば物流はどうかと考えたが、物流をするには3車線以上の道路が必要。西谷に向かうのは今2車線。その道路は県の道路であるため、県に伝えたが、3車線は難しいと言われた。それであれば市街地に誘致となると、土地がない。山の上に企業が来るのはなかなか難しい話。
- レ 山の上も考えても良いのでは。ワーケーションのようなことで、企業がオンラインで仕事をすることはできるのでは。
- ロ 【市長】私もそれを考えて様々な企業に声かけをした。企業自体が弱っていて、更なる支店等を作るのは難しいと思っている。もちろん伸びている企業はあるが、その企業がどういう方向の伸び方をしようとしているのか。ワーケーションは社員に向いているものであり、その企業がそこに向こうとしているのか。それともクライアントに向こうとしているのかにもよる。この時代、淡路島にはパソナが行って、そこでうまくいったが、それはそれで課題もある。色々な地域と意見交換をした際に、多くの方から宝塚市は閑静な住宅街で自然が近いということと言

ってもらえる。それが宝塚市の強みだと思っている。皆さんが望んでいる環境を守りながら、企業を呼ぶとなった際に、名だたる企業にも実際に宝塚市の土地も見てもらって声かけしているが、そんなに簡単なことではないということが現実。これは宝塚市の地形と位置。とはいえ、放置するわけではなく、西谷であれば自然を守りながら来ていただける企業もある。自然を大事にしながら発展させていきたい。市街地については、無い土地をどう活用するか職員と協議をしながら進めている。何もやっていないわけではなく、やった結果悲しい結果だったが、まだ諦めていない。頑張ろうと思っている。